



こばと

千葉市立第二養護学校

学 校 だ よ り

令和 7 年 9 月 17 日

第 5 号

夏休みが明け、子供たちの元気な声が戻ってきました

長かった夏休みが明け、学校に子供たちの元気な声と明るい笑顔が戻ってきました。昇降口や廊下、教室、グラウンドが子供たちの活気で満たされ、学校全体が本来の輝きを取り戻したように感じます。夏休みを経て一回り大きく成長した子どもたちと再会できたことを、教職員一同、心より嬉しく思っております。

気持ちを新たに、子供たち一人一人の健やかな成長を願い、教育活動を進めてまいります。9月に入っても残暑が続いているので、学校でも熱中症対策など、安全・安心な学校生活が送れるよう、引き続き注意を払ってまいります。

さて、去る9月10日(水)に、3・4・5年生がニッセイ名作シリーズのミュージカル「リトル・ゾンビガール」の鑑賞に引率しました。宿泊行事を除き、3つの学年が合同で校外学習に参加するのは今年度初めての試みです。会場となった千葉県文化会館の大ホールには、本校の児童のほか、市内の小学生も合わせて約1500人が集まり、開演前から熱気と期待感があふれていきました。

ミュージカルは、ゾンビと人間との争いの歴史を、子供たちが対話を通して共生の道をつくるという内容でした。ゾンビと人間、大人と子供との葛藤や対立、迷いが描かれつつ、最後は種族や年齢といった垣根を越えてそれぞれを笑顔で認め合う、心温まる物語でした。

冒頭の「手のひらを太陽に」では、演者の方々が客席のすぐそばまで来て歌ってくださいり、会場は一気に楽しい雰囲気に包まれました。子供たちは、きらびやかな舞台に目を輝かせ、歌や踊りに合わせて体を揺らしたり、手拍子をしたりと、全身でミュージカルを楽しんでいる様子でした。「コンピューターおばあちゃん」、「おしりかじり虫」といったNHKで耳のする曲やストーリーを感じる曲などたくさんの曲を演者が表現豊かに歌い、踊り、子供たちが音楽を楽しむ時間が何度もありました。特に、後半のフィナーレに向けた「WAになっておどろう」では、演者にハイタッチしたり、一緒に手を振ったりと、会場が一体となって最高潮の盛り上がりを見せました。ミュージカルの最後には、出演者全員が舞台に登場し、「楽しかった子～？」という問い合わせに、「は～い！」と思いつきり手を挙げて思いを伝えました。子供たちにとって、貴重な体験になったと思います。

夏休みが明け、子供たちは学校生活のリズムを取り戻しながら、日々の学習や活動に意欲的に取り組んでいます。ふとした瞬間に見せる頼もしい姿に、確かな成長を感じます。日常の学校生活はもちろん、今回の校外学習のような特別な体験も、子供たちの成長につながる貴重な機会だと感じます。

これからも、子供たち一人一人の成長を温かく見守り、学校とご家庭で手を取り合って子供たちの学びを支えていきたいと考えております。保護者の皆様におかれましても、引き続き本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。